

植條 敬介 議員
市民グループ未来の会



立地適正化計画やマスタープランはどのような考えで策定していくのか

Q 少子高齢化、インフラ設備の老朽化などまちづくりに求められる課題は多様化している。持続可能な地域社会を形成していくため、どのような都市像をイメージして立地適正化計画、マスタープランを策定していくのか。

A 坂出駅周辺を都市機能誘導区域に設定し、都市機能の維持や魅力ある機能の誘導、再編を検討します。また、都市機能の維持には一定以上の人口密度が求められるので、その点を踏まえて居住誘導区域を設定し、持続可能でコンパクトなまちづくりを目指していきます。郊外部においては、出張所や小学校を各地域の拠点として地域コミュニティの存続を図ると共に、公共交通による中心拠点との連携強化を図っていきます。

(建設経済部長)

質問の項目
・ 中小企業支援について
・ 健康のまちづくりについて

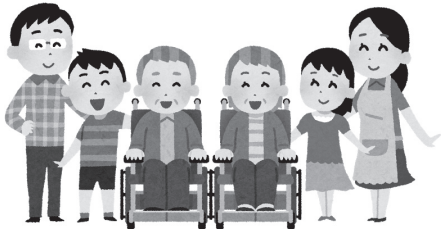
ダブルケアに悩んでいる
市民のサポート体制を

Q 少子高齢化が進展する中で、子育てと介護を同時に行うダブルケアに悩む市民の増加が予想される。そういったかたへの支援体制について、本市の対応や考え方を伺う。

A 現在は、ダブルケアに関する認知度向上に取り組んでいるほか、当事者のかたが悩みを共有する場として開催されているダブルケアカフェへ職員を派遣しています。具体的なサポートについては、社会的な議論がまだ進んでいないことから、当面は利用可能なサービスで対応することになります。

なお、本年は本市子ども・子育て支援プランの中間年として見直しを行う年に当たるので、見直しに際してはダブルケアサポートの観点も考慮していきます。

(健康福祉部長)



野角 満昭 議員
日本共産党議員会



角山環境センターの焼却炉を延命するため、燃やすごみの半減対策を求めます

Q 焼却炉の建設には多額の費用がかかるため、延命化を図ることが大事である。それには燃やすごみ、なかでも食品廃棄物等の減量策が課題となってくる。事業系食品廃棄物の減少対策及び家庭における排出対策を求めます。

A 本来食べられるにもかかわらず廃棄される「食品ロス」が社会問題となっており、国においては、宴会の場での最初の30分と最後の10分を食事の時間に充てる30・10運動など、食品ロス削減対策に取り組んでいます。また、一般家庭には、買った食品を使い切る、食べきる、ごみを捨てる際には水を切る、いわゆる「生ごみ3きり運動」の呼びかけを行っています。

(市民生活部長)

質問の項目
・ 市長3期目の政策課題について
・ 歩道のバリアフリー化について
・ 耐用年数経過後の公用車の処分について

小原紅早生みかんの
校庭植樹事業の実施を

Q 市内の小・中学校、幼稚園、保育所に小原紅早生みかんの苗木を支給し、育成、観察、収穫体験を通して子どもたちに郷土愛を深めてもらうため、本事業を今年度から実施することを提案する。

A 本市は平成24年度より、小原紅早生みかんの栽培状況を直接感じてもらうため、市内の幼稚園や保育所の子どもたちを対象に収穫体験を実施しています。

校庭での植樹事業については、子どもたちが小原紅早生みかんの特性を知る良い機会だと考えられますが、その育成には農薬の使用など専門的な知識を要することから学校等に負担がかかることも考慮し、教育委員会や県の農業改良普及センター等と協議していきたく考えています。

(建設経済部長)

